

シャロンの花だより

信仰のきずなによって聖霊が働き、キリストに在って一つとなる

◆ 希望・平和・多様性 ◆

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう

ローマの信徒への手紙15章13節

巻頭言

日本福音ルーテル日吉教会・横浜教会 牧師

かわた まさる
河田 優



風が新しい季節を運んでくるこの時、私たちはペンテコステを迎えました。五旬祭の日、弟子たちは戸を閉め、恐れの中に身を寄せ合っていました。しかし、突然激しい風が吹き、炎のような舌が一人ひとりの上にとどまり、彼らはあらゆる国や地域の言葉で語り出しました。聖霊は、閉ざされた心を開き、互いに通じ合えなかった者たちを結び合わせ、キリストにある「一つのからだ」へと造り変えました。

今、世界では国と国、人と人との間に深い分断が生まれています。互いの声が届かず、理解よりも対立が先に立つ時代であって、ペンテコステの出来事は、私たちに「本当の平和とは何か」を教えます。平和とは、単に争いがない状態ではなく、聖霊によって結び合わされ、違いを抱えたまま共に生きる力を与えられることだと、聖書は語ります。

あの日、弟子たちが語った言葉は、それぞれの人の「故郷の言葉」であったと記されています。聖霊はそれぞれの故郷を大切にしたのです。聖霊は一つの言語に人々を合わせたのではなく、むしろ多様な言葉を尊重しながら一致を生み出したのです。私たちが抱える違いもまた、聖霊によって豊かさへと変えられるのだと示されています。

ペンテコステの日に、人々がそれぞれの「故郷の言葉」で福音を聞いたように、私たちの教会にも、地域や世代、生活の歩みの違いという「それぞれの言葉」があります。東教区女性会の百年の歴史は、その多様な歩みをもつ女性たちが、それ

ぞれの場所で祈りと奉仕を続けてきた積み重ねでした。そしてその違いは分断の理由ではなく、むしろ教会を豊かにしてきた恵みの源でした。ですから、これからの時代を担う人々に希望を手渡すためにも、私たちはその多様性を受けとめながら、新しい形を探り続ける必要があります。

ある日、聖書と聖餐具を持って、教会に集うことが難しい方を訪問した折、「覚えられていることが力になります」と語られた言葉が心に残っています。置かれた状況はみな異なりますが、その違いを越えて祈りによって結ばれるとき、そこに聖霊の働きが現れます。小さな祈りや声掛けであっても、聖霊によって思いがけない励ましとなり、互いを支える恵みへと変えられていくのです。ペンテコステの日に「故郷の言葉」が人々を結んだように、私たちも互いを覚え、声を届けていきましょう。そうした私たちの小さな祈りや働きも、それぞれの歩みの中で響き合い、聖霊によって一つへと結ばれていきます。この一致の恵みを覚えながら、次の百年へと共に歩み出しましょう。



河田 優 氏 プロフィール

1964年生まれ。1994年に按手を受け、呉教会に着任。1997年より徳山教会・柳井教会を牧会。牧師数減少に伴い、最終的には五つの教会の主任牧師を務める。2006年にルーテル学院大学・神学校のチャプレンとして着任。現在は日本福音ルーテル日吉教会・横浜教会牧師として働きつつ、大学チャプレンとして学生支援と礼拝活動にも携わっている。

26期東教区女性会

第5回 春の会長会&信徒の集い

2026年4月11日(土) in むさしの教会

李明生牧師の司式・奨励による開会礼拝(召天者燭火礼拝)、各教会女性会の近況報告や協力委員等のアピールの後、むさしの教会の苅谷さんと姫野さんによるオルガンとオーボエのミニコンサートを楽しんだ。昼食時は、地区ごとに分かれて地区会打ち合わせをしながら、ヴィニヤードの会の方々の手作りのおもてなしを美味しくいただいた。午後はNCC総幹事大嶋果織牧師による講演会、帯広教会の岡田薫牧師によるZoomでの講演会を行った。多くの参加者と豊かな学びの時を持つことができたこと、会場教会の方々のご協力に心から感謝したい。

和田めぐみ

祈りをもってつながり、ともに証しして

日本キリスト教協議会 総幹事 大嶋果織



ルーテル東教区女性会「春の会長会&信徒の集い」に参加させていただき、心より感謝申し上げます。

むさしの教会に到着し、礼拝堂に入った瞬間、木造の礼拝堂のあたたかさと、ステンドグラスから差し込む柔らかな光に、心がほどけていくのを感じました。ろうそくの点灯とオルガンの深い音色から始まる礼拝では、共に神の前に立つ恵みをしみじみと味わいました。また、召天者を覚えての黙祷、地域や世代を超えて近況を分かち合う交わりの時間には、信仰によって結ばれた共同体の豊かさを実感することができました。

講演では、「いのち・平和・人権 — NCCのキーワード」をテーマに、日本キリスト教協議会(NCC)の歩みと働きについてお話させていただきました。特に、教派や国籍、立場の違いを越えて歩もうとするNCCの特徴や、ジェンダー正義の取り組みについて、皆さまと共に考える機会をいただけたことを感謝しています。「その場が安全かどうかは、弱い立場に置かれている人が決める」という視点は、私自身にとっても、これから大切にしていきたい課題です。

李明生牧師と岡田薫牧師のお話からは、出会いの不思議さと大切さに気づかされました。思いがけない経験に対して、自分を閉ざさず、開いていくこと。そこから、新しい出会いや生き方が生まれていくのだと思います。そういう意味でも、今回のみなさまとの出会いを、私も大切にしていきたいと思います。祈りをもってつながり、「ともに証ししていく」歩みを、これからも一緒に続けてまいりましょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

感謝と祈りと共に

日本福音ルーテル 帯広教会 牧師 岡田 薫



過日はお招きいただき、ありがとうございました。コロナ禍を経て、私は「教会が社会の痛みはどう寄り添うのか」という問いを改めて突きつけられました。2021年のミャンマー軍事クーデター、そして名古屋入管で起きたウィシュマ・サンダマリさんの死亡事件は、難民・移民をめぐる日本社会の現実を示す出来事でした。2023年の入管難民法改正に際しては、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)が共同声明を呼び掛け、JELCを含む126団体が賛同しました。

こうした状況の中で「難民・移民なかまのいのちの緊急基金(第1期)」が立ち上げられ、1年間で1,000万円を超える献金が寄せられました。見えてきたのは支援対象者の三分の一が子どもで、半数以上が家族世帯ということでした。多くが難民申請者であるにもかかわらず認定率は極めて低く、就労禁止、医療・教育へのアクセスの困難、精神的トラウマへの支援不足などの課題が明らかになりました。

そこで2024年10月からは、第2期となる「難民・移民なかまのいのち協働基金」が三年間の計画で再スタートし、子ども支援を重点的に行っています。献金者の4割が複数回献金してくださっており、継続的な支えが広がっています。入管法改悪の日を覚えるため、毎月9日に「ここのか祈祷会」をオンラインで行い、ニュースレター「ここのかレター」も発行しています(祈祷会が学習会やマイストーリーを聴く会となることもあります)。

私たち一人ひとりの祈りと小さな行動が、困難の中にある隣人のいのちを支え、共に生きる力となります。祈りとともに、できる形でのご協力を今後もお願い申し上げます。

東教区女性会 春の会長会&信徒の集いに参加して

稔台教会 津原 豊子

20数年ぶりに訪れた、むさしの教会。伝統ある木造建築とステンドグラスは、まったく変わっておらず、懐かしさと優しさが一杯！！

4月11日（土）、東教区の女性会に出席。久しぶりに見る、あの顔、この顔の再会があり、しみじみと女性会の連帯と責任感、歴史を感じさせてくれました。

午前中は、李明生牧師の「わたしの証人となる」。博学の先生ですが、とても分かりやすいメッセージでした。昼食は近隣地域の教会が集まり、ペチャクチャ、ガヤガヤ。むさしの教会の方々が、お手製のボルシチを作って下さり最高でした。

午後は大嶋牧師の「日本キリスト教協議会」の組織や内容について学びました。後、帯広教会の岡田薫牧師とZoomで、難民、移民の仲間の話。私は初めて聴くことばかりで、衝撃を受け、啞然としました。そして冬の寒さ厳しい土地で、ご奉仕して下さっている岡田牧師に頭が下がり、今、私ができる事を深く考えさせられました。

東教区の役員さん、そして、むさしの教会の方々、本当にありがとうございました。感謝のみ。

むさしの教会 立石節子 八木高光 猿田幸雄

❖NCC（日本キリスト教協議会）は、女性会の中では世界祈祷日の式文作成、運営を中心とした活動でよく知られています。しかし、今回の大嶋香織NCC総幹事の講演によってNCC全体の活動の大切さと豊かさが見えてきました。一見、かなり急進的な活動のように思われることもありますが、神の御心にかなった生き方なのだと思います。（立石節子）

【訂正】×大嶋香織→○大嶋果織

❖今回の大嶋果織氏、岡田薫牧師の講演をZoom配信作業を担当しながら拝聴しました。日本在住の外国にルーツを持つ方々の困難な現実を前に、どのように共に生き、支えていけるのかを考えさせられました。一人のキリスト者として、この問題を「自分事」として受け止める姿勢が問われていることを感じます。（IT委員/八木高光）

❖コロナ禍を経て、IT技術を通して教区女性会のお手伝いをさせていただいています。今回当教会で行われた大嶋果織氏、岡田薫牧師の講演では、日本社会の見えづらい現状に触れ、広い視野を持つことの大切さを感じつつ、配信作業を担当しながら興味深く拝聴しました。（IT委員/猿田幸雄）



飯田教会 女性会

フィンランドの宣教師が飯田の地に教会と幼稚園を作り、伝道が始まりました。2026年に幼稚園の建物が新しくなり、教会もリノベーションを行いました。少子高齢化と言われる現在ですが、会員の方も少なくなってきたのが現状です。

毎月第3日曜日、主日礼拝後に愛餐会を行いながら定例女性会を開いています。定例女性会では、3～7名の方が、聖書の学び等交わりの時間を持っています。活動は、主には教会行事の時に、愛餐会への協力になりますが、毎月一度、土曜日の9時30分から11時まで教会土曜学校が行われ、飯田ルーテル幼稚園を卒園した子どもたちが集まり、礼拝やお楽しみ製作の時間のお手伝いを女性会も協力しています。10名～20数名の子どもたちとの交わりは楽しいひとときとなっています。子どもたちの声は教会を元気にし、そして活力になっています。これからも続いていくことを祈りつつです。（黒河内智子）



諏訪教会 女性会

諏訪教会は、今年宣教122年目を迎えました。まだ鉄道も開通していない1905年に、フィンランドから、ウーシタロとクルビネンという二人の若い女性宣教師がはるばるやって来て開いた教会です。その頃この諏訪の地は、生糸景気に沸いており、若い女性たちがあちこちから諏訪の糸取り工場を目指してやって来ました。今と違って厳しい労働条件で働く

若い女性たちに福音を伝えるため、この地が選ばれたのでしょう。以来上諏訪・下諏訪・岡谷と三つの教会に成長しましたが、2001年合併して「諏訪教会」となりました。しかし、信徒数も牧師数も減少する中、今年4月からは、松本・長野・諏訪の三教会が秋久潤牧師の兼牧となりました。

教会の未来が不安になる時、私たちは、この地にやって来た二人のフィンランド女性や、生糸取りをしていた若い女性たちに思いを馳せます。もっと苦しくつらい日々だったことなのでしょう。しかし、彼女たちが見た美しい山々と諏訪湖の風景は、今も変わりません。神様は試練と同時に、こんな素晴らしい贈り物も下さったのです。（小口理恵子）



松本教会 女性会

国宝松本城から歩いて10分くらいのところに松本教会があります。この地で伝道が始まって67年目です。礼拝参加者はほとんどが女性という中で、皆多くの働きを担っています。その中で女性会の活動としては第3日曜の礼拝後の聖書の学びと第4金曜の午後には「パーチェの会」の呼称で教会の美化とお茶の楽しい

交わりの時を持っています。お野菜作りが得意な方、お料理が得意な方が毎回美味しい物を作ってください感謝です。その他子どもイースター、夏のデイキャンプ、子どもクリスマスでは女性たちがお台所を一手に引き受け、子どもたちと神さまの出会いの場を支えています。

教会に2本の杏の木があります。毎年たくさんの実をつけてくれるので収穫後は皆でジャム作りをし、バザー時に販売します。地域の皆さんにも大人気！今年も実をたくさんつけてくれました！神さまの恵みに感謝しつつ、美味しいジャム作りに励みます。（会長 谷口和恵）



市ヶ谷教会 マルタの会

市ヶ谷教会女性会「マルタの会」は、与えられた賜物を生かしながら、奉仕と学びを続けています。毎週第3日曜日礼拝後、昼食を共にした後、壮年会と合同で女性会連盟会報からの資料「聖書研究」を用いて学びをし、その後分かれて例会をします。

3月には、長年ご奉仕くださった浅野聖子さんを囲んで最後の例会を持ち、思い出を分かち合う和やかな時となりました。4月の例会では、青年会と合同で森一樹さんからインドでの義足作りワークショップの報告を聞き、JELAの理念「キリストの愛で隣人に仕える」を体現する姿に励まされました。

今後は5月のむさしの教会でのバーベキュー交流会に参加し、6月には国際交流基金の日本語教師としてタイに派遣されていた榎本和江さんのお話を伺う予定です。これからも日々の小さな奉仕を通して、互いに支え合いながら歩んでいきたいと願っています。(会長 川端聡子)



三鷹教会 オリーブの会

三鷹教会は来年、創立40周年を迎えます。2003年には婦人会が「オリーブの会」へと改名され、現在は男性の会員の方もいらっしゃいます。

オリーブの会は、毎月第3日曜日の午後に例会を行っています。どなたでも参加でき、当日のご参加も歓迎しています。例会はまず、聖書の学びから始まります。会報の聖書研究の箇所をもとに、心に留まったいくつかの言葉を取り上げ、皆で語り合い、高村先生が解説を加えてくださいます。時には話題が思いがけない方向へ広がることもあります。その後、近況報告や、その時々に応じて必要な事柄について話し合いを行います。また、お誕生日を迎えられた方には、会員一人ひとりがその方を思いながら寄せた一言メッセージを集め、カードにしてお贈りしています。

神さまを真ん中に、どなたでも気軽に立ち寄れ、心安らぐ場となることを願いながら、これからも歩み続けてまいります。(会長 水戸明子)



むさしの教会 ヴィニヤードの会

「101年目の未来のかたちへ」

むさしの教会は2025年10月、鷺宮の神学校教会から始まり宣教100周年を迎えました。歴代牧師による礼拝や愛餐会など、2026年にかけてさまざまな記念行事が行われています。ヴィニヤード（ぶどう園）の会も、こうした教会全体の働きに幅広く関わっています。

例会をはじめ活動全般は教会全体に開かれており、男性教会員も参加し、共に活動しています。礼拝後のコーヒーショップ運営をはじめ、世界祈祷日礼拝、お花見会、復活祭祝会、教会コンサート、CS行事や夏祭り、むさしの教会フェスタ、講演会、コンサート、クリスマス礼拝・祝会などを通して、地域とのつながりを大切にしています。

中央線沿線の教会をはじめ他教会の方々も歓迎し、誰もが参加しやすい集まりを心がけています。最近外国にルーツを持つ方々の来会も続いており、交流を広げ、101年目の出会いを喜び、未来の形を考えながら奉仕の精神を大切にしていきたいと願っています。(会長 佐藤泰子・世話人会一同)



いつくしみ講演会 リンゴの木代表 保育者 柴田愛子

2026年2月28日（土）日本福音ルーテル大岡山教会にて行われた【いつくしみ講演会】は、Eテレ番組「すくすく子育て」などでも子育てについてお話しくださっている柴田愛子先生による講演会「みんなで子育てを楽しもう～子どもが健やかに育つには～」でした。いつくしみの関東委員である根本明子さんにご報告をいただきました。

“いつくしみ”の立ち位置

大森教会 根本明子

“いつくしみ”をお引き受けし、いただいた資料を拝見して、できるのかどうか不安になりました。女性会の会員数が減っている現在で、どうすればいいのだろうか？これからのことを考えると、とにかく教会に人が集まるようにできればいいのだが、すぐには無理としても教会に来たことのない人に来ていただくようにする。また、その際どのような年齢層の方を？例えば若い方々？しかし若い人は仕事等に忙しいし、もう少し年長の方々は仕事が超多忙ということです。考え付いたのが小さい子どものいる年代です。子どものたまり場？という考え方です。しかし、専業主婦が年々減っている現代では無理に感じられました。であればその前の段階がいいのではと考えました。一昔前と違い、今は産休・育休が十分取得できます。その間に教会になじみ、通う習慣ができればという、甘い考えというか妄想が浮かびました。

教会へ来るきっかけとして講演会という形がいいのではないかと思いました。子育てで有名なのは柴田愛子先生でした。Eテレにはなんども出演なさっていて子育て世代には知れ渡っている方です。依頼をして何とか了承していただき、場所、日付を話し合いました。それからは1人では無理なので友人に力を貸してほしいと、お願いをしました。

最初は2人で相談をし、決めていきました（後に3人加わっていただきました）。講演会の内容は柴田先生に趣旨を説明し、何度か話をさせていただいて決めていただきました。場所選定の基準は

柴田愛子先生講演会

みんなで子育てを楽しもう
～子どもが健やかに育つには～

2026年2月28日 土

受付：12時30分～
開始：13時00分～
終了：15時00分

小さいお子様、赤ちゃん連れも歓迎です

講師紹介

柴田 愛子先生 リンゴの木代表、保育者

保育のかたわら、保育雑誌や育児雑誌などに寄稿、子育て支援ひろばや保育園、幼稚園、小学校の親の会、保育士や幼稚園教諭の研修会などで講演。

「子どもの心により寄り添う」を基本姿勢とし、子どもとあそび、子どもたちが生み出すさまざまなドラマを大人に伝えることで、子どもと大人の気持ちのいい関係づくりをしたいと願っている。また、その願いを子育て本や絵本の執筆に託している。

講演：柴田 愛子先生

主な著書

『保育歴50年 愛子先生の子育てお悩み相談』『子育てを楽しむ本』『つれづれAiko』『もっとほしたい子育ての楽しさ』『講演録 親と子のいい関係』『保育の瞬間』『それって保育の常識ですか？』『あなたが自分らしく生きれば子どもは幸せに育ちます』『ほしたしたらもう止まらない！愛子先生と大豆生田先生の「保育はやっぱりおもしろい！」』等

主な絵本

『けんかのきもち』『ぜっこう』『ありがとうのきもち』『ほくはいかない』『ともだちがほしいの』等多数

出演番組

Eテレ「すくすく子育て」NHKラジオ「子育て深夜便」等

その他

保育スペースを用意しています。離れられるお子様は保育士が見ています。

会場 日本福音ルーテル大岡山教会

住所 大田区南千束3-16-5

主催 いつくしみ関東委員会(日本福音ルーテル教会、日本ルーテル教団)

問い合わせ先 090-2329-2134 (担当者)

ベビーカーでも来れる場所。これは駅も含みます。結果として大岡山教会に依頼しました。日程は2月28日と決まりました。そして何より人手が必要と考えました。子どもの世話をしていただく方、おもちゃ等の用意をする方等が必要です。そこで大岡山教会女性会と教区女性会の役員の方々にお願いをしました。いずれの女性会も快く引き受けてくださりホッとしました。

これからは男性も育児、家事を担っていく時代です。子育ても然りです。それを踏まえて講演会は「お父さんも歓迎」という文言をチラシに入れました。家族連れがいらした時は嬉しかったです。子どもが5名見えました。保育担当の方々は大変でした。

多くの方に助けていただきました。また励ましていただきました。感謝です。この活動が続けられて、少しでも教会へ通う人が増えればと思います。しかしそれは、形としてはなかなかならないと思います。それでも続けていくことが大事であり、必要ではないのかと思います。今後は子育てに関するあらゆる問題を取り上げていきたいと思っています。目立たなくても、いつか形が見えてくることを信じていきたいと思っています。

デンマーク牧場 ―グリーンズフェア― 関連施設を訪れて

和田めぐみ・綱 春子

2026年5月23日（土）、デンマーク牧場のグリーンズフェアに役員2人で訪問した。



東海教区女性会会長の柴田恵子さん（新霊山教会）がご案内してくださり、就労継続支援事業（A・B型）の「いぶき」、こども家庭サポートセンターの3つの事業「だいち」（児童発達支援センター）、「たより」（児童家庭支援センター）、「わかば」（相談支援センター）の施設を見学させていただきました。

「いぶき」の農場では、放牧された羊・ヤギ・ジャージー牛などと触れ合うコーナーがあり、羊の毛刈りの時間には多くの人が集まっていた。

施設長の刑部隆一さんに案内していただき、牛乳からアイスクリームやヨーグルトを作る施設、刈り取った羊毛をきれいに洗って、糸を作り、織物や羊毛製品を作る施設などを見た。放牧されている羊の毛についたごみをきれいに取る作業にしても、分業して同じ形を作る作業にしても、根気強さが必要だが、ここで働く方々が、喜びをもって取り組んでいる姿が素晴らしいと感じた。この日、ボランティアの方と一緒にドーナツを作り、販売する方々は、笑顔が溢れていた。放牧の牛は、時間になると、牛舎に自分で戻り、名前が書いてある場所にちゃんと入って、搾乳してもらいたい。動物と人とがとても近いこの環境の中で、神様の恵みをいただき、様々な人が手を取り合って暮らしている豊かさを感じた。



その後、高齢者福祉サービス「ディアコニア」へご案内頂き、利用者様の昼食を試食した。食欲をそそる盛り付けと適切な味付けと量、細やかな配慮のもと給食担当の方の愛を感じた。食事をしながら、デンマーク牧場福祉会の全体像についてパワーポイントを用いて、常務理事の梅田和寛さんにご説明いただいた。その後、法人事務局長の小久保秀樹さんに、こども家庭サポートセンターについてお話しいただき、実際に施設内を見せていただいた。児童発達支援センター「だいち」は、独りで過ごしたいと思う子に寄り添う部屋があった。一人ひとりを大切にする実践が行なわれている。



特養ディアコニアの玄関



児童発達支援センター「だいち」で、小久保さんと

敷地内にある新霊山教会は、この日のためにオープン・チャーチになっていた。お寺？と想える建築だが、静かで、疲れた心を癒していただくような礼拝堂で、聖霊に満ちあふれている雰囲気である。明比輝代彦牧師の元気なお姿にお目にかかれ嬉しかった。明比牧師は、デンマーク牧場創設に尽力なさった方々のお一人である。初めて教会を知る一般市民の方もいたことだろう。私たちもコーヒーを御馳走になり憩わせていただいた。

新霊山教会に通じる坂道で、主任牧師の渡邊克博牧師とお会いした。柴田さんが掛川駅まで送ってくださる車中でのご挨拶となったが、先生の弾けそうな笑顔が印象に残った。今回の訪問で、大変お世話になった柴田恵子さんに心から感謝したい。



柴田恵子さんと



明比輝代彦牧師と歓談中

2025年度決算・2026年度予算（案）

東教区女性会(26期) (2025年12月31日 現在)

単位:円

■ 支援献金 内訳(2025年)

■ 連盟送金 内訳(2025年)

	費 目	2025年度		2026年度	
		予算(案)	決算	予算(案)	
収 入	東 教 区 会 費	379,200	369,600	379,200	1200×308
	教区便り購読費	15,000	10,300	15,000	100×103部
	教区活動支援献金	100,000	36,300	50,000	11教会
	感 謝 献 金	50,000	48,250	50,000	12教会
	感謝献金(席上献金)	0	134,550	0	女性会集い・地区会
入 雑	雑 収 入	500	2,769	500	普通預金・定期預金利息
	小 計	544,700	601,769	494,700	
	前年度繰越金	1,685,923	1,685,923	1,685,923	
	収 入 合 計	2,230,623	2,287,692	2,180,623	
支 出	教 区 便 り	100,000	137,155	100,000	印刷 発送等
	会 議 費	100,000	94,820	100,000	説教・オルガニスト・講師等
	交 通 費	200,000	163,682	200,000	役員会・会長会
	教 区 交 流 費	100,000	63,633	100,000	遠距離教会交通費・教会訪問
	地 区 活 動 費	120,000	120,000	120,000	西地区
	次世代育成支援金	120,000	93,000	120,000	TNG活動支援・神学生への手帳
	通 信 事 務 費	30,000	2,201	30,000	事務用品 郵便・通信
	慶 弔 費	10,000	0	10,000	
	予 備 費	10,000	0	10,000	
	支 援 献 金	200,000	322,800	200,000	神学校・ルーテル学院・ほしくずの会・東京老人ホーム・東京老人ホーム・ベタニヤホーム・千葉ベタニヤホーム・ルーテルのと支援・JELA
	連盟総大会積立金	0		0	
	東教区総会積立金	0		0	
	コーヒーショップ	0		0	材料費 包装費等
	雑 費	5,000	1,826	5,000	振込手数料 郵送通知料金等
	検 討 委 員 会	100,000	31,562	100,000	
	仮 受 金	0	0	0	
	小 計	1,095,000	1,030,679	1,095,000	
	次年度繰越金	1,135,623	1,257,013	1,135,623	
	支 出 合 計	2,230,623	2,287,692	2,230,623	

支援先	金額	連盟会費	800,800
神学校・ルーテル学院	172,800	会報購読	57,200
ほしくずの会	30,000	連盟支援	48,000
東京老人ホーム	30,000	感謝献金	77,450
ベタニヤホーム	35,000	神学生支援	116,000
千葉ベタニヤホーム	20,000	リーストコイン	37,846
JELA	20,000	TNG	44,500
ルーテルのと支援	15,000	ACWC	9,000
合 計	322,800	合 計	1,190,796

現金・貯金残高

通常郵便貯金	1,527,986	次年度繰越金	1,281,566
定額・定期	500,000	積立金残高	746,420
現金	0		
合 計	2,027,986	合 計	2,027,986

(2025年12月31日 現在)

定期預金・定額預金(旧)19期 用いたまえ愛の主よ基金 500,000円

連盟総・大会 教区総会積立金

積立金会計	収 入	支 出	残 高
連盟総・大会積立金	450,000		450,000
25年度積立			
教区総会積立金	296,420		296,420
25年度積立			

合計 746,420

26期東教区女性会

第6回「秋の信徒の集い」のお知らせ

日時:2026年10月12日(月・祝) 10:30～

会場:日本福音ルーテル東京池袋教会

〒171-0014 東京都豊島区池袋3-7-1

☎03-3984-3853

会計監査報告

- 1.監査日時 2026年2月5日(木) 14:00～15:30
- 2.場 所 ルーテル市ヶ谷センター東教区事務局会議室
東京都新宿区市谷砂土原町1丁目1番地
- 3.監査委員 滝沢 峰子(第25期東教区女性会選出/蒲田教会)
島田 洋子(第25期東教区女性会選出/東京教会)
- 4.立 会 人 和田めぐみ(会長) 小林エイ子(会計)

上記会計監査により2025年度決算のご承認をいただきました。
収入の部では会員数の減少と前年度の繰越金の減少がありますが、
支出の部では活動の必要性や現実的な状況を把握して予算を組み
ました。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いします。

…………… 編集後記 ……………

「違いを越える」とは何だろう。人種、国籍、
信仰や立場、ジェンダーを含めたアイデンティ
ティ。

春の集いでは、NCCや外キ協の活動について
学びながら、今期女性会のテーマである「希
望・平和・多様性」への歩みを改めて見つめる
ひとときとなりました。

(記:石原)

東教区女性会会報 第107号 2026年6月1日

発行人:日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会

発行者:和田めぐみ 編集人:石原真由美